

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000865
法人名	㈱エレガンス福岡
事業所名	グループホーム ラペ福浜 (ユニット名 2)
所在地	福岡県福岡市中央区福浜2-1-5
自己評価作成日	令和元年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和元年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心して笑顔で過ごせる様援助します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は階3建てになっており、1階は関連事業所のデイサービス・訪問介護事業所が入っており連携をとっている。福岡市内の大通りに面しており、交通の便が良く、近隣には病院やコンビニエンスストア、小学校や中学校もある。人通りも多く、事業所の窓から道行く人の姿も見える。事業所の周囲は街路樹があったり、大規模な団地で草花を育てていたりするので、四季を感じながら散歩ができるコースになっている。事業所にはAEDを設置しており、緊急時の初期対応ができる体制が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と施設の交流は薄くなっているが、入居者様と近隣の散歩に出かけ挨拶くらいの交流は行っている。	母体法人が変わり「ラペ」となってからの理念作成に至っていない。管理者も交代してからは理念の把握に至っていない。管理者自身の介護に対する思いで実践しているところで、職員にも理念の意義を説明をするに至っていない。	今現在の管理者と職員が地域密着型サービスの意義をふまえた理念について、共有できるよう検討する機会を持つことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と施設の交流は薄くなっているが、運営推進会議等で繋がろうとはしている。	以前は地域の運動会や図書館へ行っていたが、利用者の高齢化や車いすの利用者が多くなり、最近に行くことがない。近隣の散歩などであいさつをすることで交流の機会としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて民生委員や自治会長等との意見交換等はあるが、発信力は弱い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいる。	地域の民生委員・自治会長・地域包括支援センター・社会福祉協議会・併設のデイサービスセンター管理者が参加し取り組み状況の報告を行っている。参加者の意見を受けておらず、サービスへの活用までに至っていない。	運営推進会議では、参加者からの意見を聞き出し、よりよいサービス向上につなげる機会として活用していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	回数は多くないが取り組んでいる。	市の保護課と連携を取り合っている。市の担当者とのケアサービスの連携までには至っていない。	日頃から連携を持てるように働きかけていくことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料による事業所内での勉強会をおこなっている。	日中は1階の施錠はしていない。センサーは家族から依頼のある方と、転倒のリスクがある方にも使用している。職員は、身体拘束の対象となる具体的な行為などについての正しい理解がしっかりできているとは言い難い。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有意識を図ることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料による事業所内での勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料による事業所内での勉強会をおこなっている。	現在は権利擁護に関する制度を利用している方はいない。管理者は研修に行っており、職員への伝達研修はできておらず、資料を渡している。家族の相談は受ける体制を整えており、資料等の提示には至っていない。	権利擁護に関する制度についての周知の意味でもポスター掲示やパンフレットの設置とあわせて、職員への伝達研修等により、理解を深める工夫を期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時に説明と不明点等は確認させていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を設け何時でも要望を聞く機会はある。契約説明時にも伝えてある。	意見箱を設置しているがこれまでに意見が入っていたとはなく、運営には反映した事例はない。個別の要望なども含めて、意見などを聞く体制は整えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	設けている。	管理者には意見や提案などの要望は出しやすい。記録用紙が重複していることで、記録を纏められるような内容の提案を行ったことがあり、採用され記録がしやすくなった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	配慮している。	職員の募集は常にしており、年齢や性別を採用条件にはしていない。働き方については、時間帯や部署の変更など、職員の満足できる配慮がなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいる。	外部研修は管理者が受けているが、伝達研修までには至っていない。職員へ資料を渡して職員自身が学ぶ体制をとっている。	資料による学習とあわせて、伝達研修など管理者と職員が人権について話し合う機会をもつことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組めていない。建物内の他事業所との交流はある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	取り組んでいる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	限度はあるが取り組んでいる。	利用者の友人が訪問してくることもある。以前から利用している美容院へ行くことがむずかしい方には、事業所に出張してもらい施術をうけていることもあり、なじみの関係の継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	日頃から小まめに声掛け観察を行い、少しの変化も気づく様にしている。表情や身振りから楽しんでいる様子や、ふさぎ込む様子を把握し、申し送りや記録に残し職員が希望や意向に沿うケアをしている。アセスメント等の情報は、決定事項書類で共有したり、会議で調整したりしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に話し合いを行い、その都度現状に合った介護計画書を作成出来ている。	2・3階合同でケアマネジャーが司会進行役を務め、短期目標を3ヶ月に一度見直し、ケース会議にて課題とケアのあり方について調整している。計画見直しの際は、家族に連絡し了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	取り組んでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に来て頂く病院が現在6ヶ所あり、それ以外にも希望の病院への受診をしていただいている。	内科・外科・眼科・歯科の定期往診と皮膚科については外来受診できるかかりつけ医がいる。契約時に今までのかかりつけ医の継続でもできることを説明はしており、往診を選択する利用者が多い。緊急時は、往診に来る医師の指示を仰ぎ搬送に繋げ、事業所へ戻ってからはかかりつけのフォローがあり地域連携が取れている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	取り組んでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	近年、3名ほどの看取りをしており、家族が宿泊し共に看取る事や、看取りのために入居してくる利用者もいる。終末期のあり方について、入居時契約の中で意向を聞くようにしているが、契約書や重要事項説明書等書面での承諾は得ていない。看取りケアに不安をいただく職員に対し、チームで対応し、その方の人生らしい温かな最期に関われる喜びを持つよう心掛けている。	看取の際の家族の気持ちの変化に寄り添うためにも、入居時のみならず経過的に意向の把握に努めることや、その際ケース記録の記載だけでなく必要な書面を残しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	取り組んでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制には不安があるが、建物内他事業所と共に避難訓練等を定期的に行っている。	ハザードマップ上は水害等の警戒エリアには属していないため、主に火災を想定した避難訓練を、一部の利用者の協力を得て実際避難誘導をし5月、11月に行っている。以前参加していた校区の訓練は、参加呼びかけはあるも現在は参加出来ていない。	有事に備え、全職員がスムーズに避難誘導対応ができるマニュアルの作成と、備蓄品や持ち出し袋等の準備が望まれる。地域との連携についても検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	取り組んでいる。	人生の大先輩と思い日々の声掛けをしている。トイレ等の誘導は、利用者のプライバシーに配慮している。日々の記録は、様子観察できる廊下のテーブルで行なっている。メモとして使っている裏紙を含め書類の保管については書庫保管とはなっていない。	書類の保管については、個人情報保護を遂行できる対応を期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	細かな声掛け等行い希望を引き出せるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	取り組んでいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	取り組んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事参加出来る方やしたい方には、お声掛け等させて頂き盛り付け等の簡易な事に参加頂いている。	業者より日々届いており、利用者の希望や状態に合わせて各フロアで手を加え、バランスの良い食事の提供をしている。利用者は、盛り付けや下膳など出来る範囲の役割を担っている。利用者と共にベランダで栽培しているトマト、キュウリ、ゴーヤを食卓にだしたり、行事食も充実しており楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態に応じての調整をおこ+D93:E100なっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には、毎食後お声掛けさせて頂き誘導させて頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なお声掛けや状態によるお声掛け等行いトイレ誘導させて頂いている。	排泄チェック表を付け、細かくトイレ誘導の声掛けを行い対応している。夜間は、ベット横にポータブルトイレを設置し、自立に向けた支援に取り組んでいる。夏場のオムツ使用は、蒸れやすく皮膚の状態を考慮すると失禁をしても、布パンツにパット使用で対応する事もある。トイレには、清拭用のホットタオルを準備しており、常時清潔が保てる配慮がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との相談や生活習慣等により、軟飯、軟菜の提供をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間を楽しんで頂けるよう入浴剤等使用させて頂いている。	週に6日間は入浴する機会があり、日に2~3人の定期誘導となっている。一人あたりの入浴回数には差がある。湯船のお湯は入れ替えながら清潔を保っている。入浴を拒まれる場合は、清拭を試みている。	週6日入浴できる機会がある為、利用者のタイミングに合わせた入浴の機会が得られるように期待したい。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	取り組んでいる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事として花見や初詣等とドライブ等行っている。	近隣へ散歩したりスーパーへ買い物に行くなど1対1で外出をしているが、地域の協力を得たり、本人の希望に即すまでには至っていない。入浴日を調整して、皆で外出する事もあるが心身状況により外出を拒む場合が増えている。家族と共に外出する際の門限等は無く、自由に出かけている。	外気に触れることで得られる五感への刺激や、気分転換をすることも得られる効果も大きいことから、外出支援のあり方について今一度検討する機会をもち、地域等の協力も得られるような工夫を望みたい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事等の中でおやつを購入等出来る様にしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取り組んでいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節の置物等を置いている。自室にも行事等で撮った写真をかざっている。	居室の窓は大きく、中庭仕様のベランダもあり採光があり明るい。近年リフォームしており、モダンな作りとなっている。食事の際は、音楽を聴きながら優雅に取ることが出来ている。クリスマスなど季節の飾りつけもしている。	リフォーム後のモダンなつくりをしているところなので、浴室やトイレの掃除用具類もリスク管理とあわせて置き場所について検討することが望まれる。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの場所等が在り気分に応じて異動して頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活をそのままにお伝えさせて頂いている。	冷蔵庫以外の持ち込みは可能であり、写真や手芸作品などを飾りそれぞれの個性豊かな居室となっている。週1回かつ汚染時のリネン交換が行われているが、日中使用しないポータブルトイレや、保管用のおむつなども見える状態で置いてある。	日中使用しない物品の収納については利用者本人の意向も確認しながら検討することが望まれる。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	取り組んでいる。		